



薬科学教育部 創薬科学専攻
博士前期課程 1年

中野 友寛 (なかのともひろ)

薬学部 薬学科 6年

道沖 麻希 (みちおきまき)

若き研究者に 大きな期待

徳大生 大活躍!

【取材】

こんにちは!!今回マイキャンパスライフの原稿を書かせていただきます。医学部医学科5年の金子正憲と申します。大阪府堺市出身で、サッカー部に所属しています。簡単に自分はどうな学生かといいますが、好奇心旺盛で、適当で、自由人!!そんな感じでしょうか。そんな私も学生生活で重視していることがあります。もちろん勉強もそうなのですが、今回は置いておいて。

私がまず学生生活で一番重視していることは、今にしか出来ないことをやる!!経験する!!ということとです。今にしか出来ないことと、バイトも一つあげられることなのですが、一番は海外一人旅です。もともと国際協力を仕事にしたいと思っていた僕は、大学一年の春休みに、初海外でありながら、東南アジアを一人旅し、海外の魅力に取りつかれました。働き出したら、こんな長期間で旅に出ることなんて、絶対にできない。そういう思いでそれ以降、インドや東アフリカ等、計13か国を旅しました。海外一人旅の何が魅力なの??一言でいうと刺激です。発



医学部 医学科 5年
金子 正憲 (かねこまさのり)



ネパール、カスキコット村にて子供たちとサッカー

展途上国といわれる国々は日本で「えっ?!!」っていうようなものが日常茶飯事。トラブルに遭遇しつつも、自分一人旅のルートを選択し、目的地を目指す。その中で、いろんな出会いがあり、その国の現実と向き合い、悩み、考える。そうして旅を繰り返すと、価値観が広がって、自分が成長した気がします。また、自分が将来の本当にやりたいことは何かを見つけてきつかけにもなりました。本当に旅は素晴らしいです。もう一つ、重要視していること

は、出会い。サッカー部の素晴らしい仲間と出会い、西日本医科学生サッカー大会で優勝し、最高の思い出を作りました。国際協力という同じ目標を持つ仲間と出会い、その縁で『NGO 徳島で国際協力を考える会 TICCO』の学生会、TICCO YOUTH に加入し、活動をしています。仲間と世界についてディスカッションしたり、イベントを計画したり。そのおかげで夢に向かって充実した生活を送れています。何かを変えようと熱い思いで活動する人たちと出会い、いろんなイベントに参加させてもらい、いろいろな繋がりを持たせてもらっています。そういうような出会いがあったからこそ今回のマイキャンパスライフも書かせて頂いています。他にも、実習先での患者さんとの出会い、地元と同級生との再会、親戚とかとの集まり、一人旅中での出会い。一期一会、出会いは本当に大切だと思っています。

今現在、毎日の病院実習、それとともに自分のやりたいこと、TICCO YOUTHでの活動等、自分の夢に向かって突き進んでいます。今後もしもいろんな人に出会い、挑戦し、今しか出来ないことをがんばっていかうと思います。青春謳歌!!

今回紹介する中野さん、道沖さんは、本誌2010年7月号の最先端研究探訪で登場しました福井裕行先生(大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学系)教授)の研究室に所属しています。

私たちの体内で合成されるヒスタミンという化学物質は、花粉症やじんましんなどのアレルギー疾患において、症状を引き起こす原因となります。ですからアレルギー疾患を抑えるためには抗ヒスタミン薬という薬が使われます。しかし抗ヒスタミン薬がどのようにヒスタミンを抑制してアレルギー疾患を治していくのかというメカニズムは、まだすべてが明らかではありません。また、ヒスタミンは免疫・アレルギーのみならず、胃酸分泌や中枢神経伝達にも重要な役割を担っています。そのために日本にも世界にもヒスタミン学会があり、多くの研究者がその研究に取り組んでいます。毎年、各国持ち回りで開催される『ヨーロッパ・ヒスタミン学会』には世界中から研究者が集い、日々の研究の成果を発表しあいます。昨年はポーランドで5月に開催されました。同時に若手の研究者を奨励、顕彰する賞『ヤング・

インベスティゲーター・アワード』が発表されますが、昨年は大勢の中から6名が選ばれ、なんと内2名が日本人で、その2人が中野さんと道沖さんでした。

「二人の研究は、薬学の歴史にも残るでしょう」と福井先生。生薬の有効成分の薬理機構を精力的に研究を進めている先生の下で、中野さんは桑の葉に含まれるケルセチンという物質が抗ヒスタミン薬の代わりになることや、それがどう作用して効くのかを解明して発表することが高く評価されました。

一方、道沖さんは動物実験を通じて、ヒスタミンとアレルギー疾患を引き起こす遺伝子の関係からヒスタミンが遺伝子にどのように作用してアレルギー疾患を引き起こすのかというメカニズムを解明しました。

「発表は英語です。論文は練習できますが、後の質疑応答はどきどきしました」と語る中野さんと道沖さん。日本の若き研究者の優秀さを示した二人に触発されて、薬学の明日を拓く、多くの徳大生が続いてはばたいてくれることでしょう。



My Life Situation

サークル等: 医学部サッカー部、TICO YOUTH
バイト: CoCo 壱番屋
趣味: 海外一人旅、アクティブなこと



インド、現地人とともにホーリー祭



エチオピア少数民族ムルシ族とともに



キリマンジャロ(5898m)登頂